

学習三原則 — 生活を正す 目標を持つ 継続する



育友会報

学校法人飛騨学園 高山西高等学校

〒506-0059 岐阜県高山市下林町353
TEL0577-32-2590/FAX0577-33-9911

発行 第47号(卒業記念号)
高山西高等学校 育友会 文化委員会
URL <http://www.takanishi.ed.jp>



ISO14001認証取得

「劇的な変化のなかで」

育友会長 下畑了三



3年生の皆さん、このたびは誠に卒業おめでとうございませう。卒業生の保護者の皆様にとって喜びもひとしおのこととお慶び申し上げます。また、日頃から育友会活動へのご理解とご協力をいただいた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

新年早々、前理事長による学校資金の私的流用が発覚しました。この問題が新年を迎えた直後に発表・報道されたことは、大学受験や入試期間を迎える時期に、皆様に不安を与えたことでしょうか。学校は生徒に不利益が及ばないように全力で対応し、今後の学校運営の監督についても準備を進めています。育友会としては、会長が評議員の一員として、高山西高校の今後を見守る役割を果たします。

さて、令和6年元旦に発生した能登半島地震では、今も避難生活を余儀なくされている方々が1万人以上いらっしゃいます。東北大地震から13年が経ちつつありますが、東北でも今なお復興が進んでいない地域があります。被災地の皆様には心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

日常が当たり前のよう過ぎていたなか、このように、いつ何時自分の身の回りに災害が起こるか分かりません。大切な家族や友人を一瞬で失ったり、自宅や学舎が崩れてしまったりするような、想像を絶する苦境の中で未来に向けて一歩を踏み出すことは決して容易なことではありません。今日を生きていることさえも、どうでも良くなってしまふ状況に、いつ向かい合うことになるのか誰も知りません。生きる力や諦めない力を育んでいくことは、私たちにとって重要なテーマなのではないでしょうか。

高山西高校では、飛騨地域唯一の私立高校として、朝早くから夜遅くまで熱心に、個性を活かす独自の教育が行われています。特進Iでは、朝早くから夜遅くまで授業が9時間も行われ、生徒には辛抱強い学習と体力が求められています。特進IIでは勉学と部活を両立しながら厳しいトレーニングを通して、精神的な強さを身につけ、試合の中で思うようにならない場面でもそれを克服していく柔軟性を身につけていると思えます。家族の協力や先生の努力、そして地域のご協

力に支えられながら、とことん高校生をしていける高山西高校の生徒は、しっかりと生きている力を蓄えてきているのではないかと思います。

卒業生にとってはあつという間の3年間だったと思いますが、まだまだ人生は始まったばかりです。これから、たくさんの変化球が待つばかりです。職種も働き方もとても多様化し、良くも悪くも変化の大きな時代です。これからは、高山西高校の生活で培った生きる力に、さらに磨きをかけて、どんな状況にも負けずに充実した人生を送ってもらいたいと願っています。

「日本でいちばん大切にしたい高校」へ

理事長・校長 小林隆徳



先日発覚した元理事長の不正行為により、皆様方に変なご心配とご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。今後はガバナンスを強化し、再発防止に努めるとともに、より一層魅力ある学園作りを進進してまいります。どうかご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

さて、本日は3年間の高校生活を終え、新たな道へと旅立つ我が子の姿を見送る日となりました。保護者の皆様にとって、安堵と喜びの入り混じった感慨深い日であること存じます。本校での生活は濃密で充実したものでしたが、それゆえに保護者の皆様にも普段のお仕事に加え、さまざまなご苦労やご協力をお願いすることが多かったのではないのでしょうか。それだけに、今日の卒業証書は、何ものにも代えがたい価値を持ったものであると思います。

今年の3年生は、高山西高校の歴史に名を残すような活躍を見せた学年でした。剣道、レスリング、ハンドボール、アーチェリー、バドミントン、英語ディベートは全国レベルの強豪として、バスケットボール男子、硬式野球、ウインドアンサンブルは県内での活躍が注目を集めています。また、特進IIクラスから初の医学科合格、防衛大学校合格者が過去最多となるなど、志の高さも際立っていました。卒業後も、それぞれの特長を活かし、新しい時代を切り開く人材となつてほしいと願って

います。

「創立から六十年を経て」

本校は今年度創立六十周年を迎えました。人に喩えると還暦を迎えたわけですが、還暦の「もう一度生まれ変わって直す」という意味を踏まえて、本校の歩みを振り返りたいと思います。

昭和38年、第二次ベビーブームの世代が高校進学を迎えるなか、行き先のない生徒があつてはならないと憂慮した、市の教育委員を務めていた打保松次郎氏を中心とする皆様によって創立されました。初代校長には馬淵克巳先生が就任されました。創立当初は多くの入学生がいましたが、やがて志願者が激減し、第一志望者が一桁にまで減少する時期が訪れました。そのころは教師も生徒も学校に愛着を感じず、西高生としての誇りを持ってない時期でした。しかし、昭和63年度、二代目理事長 打保正守氏からは、この危機を乗り越えるために、谷口耕平先生に三顧の礼をもって校長に就任していただきました。谷口先生は「教育の権化」ともいえる存在でした。サムエル・ウルマンの「青春」を信条として掲げた谷口校長先生は、着任後すぐに学校の大規模な改革に着手されました。「男女共学普通科の使命は進学にある」と高山西進学校化への決意を表明し、その真剣さはすぐに伝わることとなりました。

まず取り組まれたのは、生活指導の徹底でした。問題行動の多い学校では学習に集中できません。問題行動の根絶のために、厳しい生活指導が行われました。それから約10年の歳月を経て、本校は大きな変革を遂げました。谷口校長が熟慮の末に示した言葉、「学習三原則(生活を正す・目標を持つ・継続する)」は、現在も校是として脈々と受け継がれています。当時、「学習しない者は去れ」という姿勢が職員室の空気を支配していました。谷口校長の数々の言葉が、職員たちの心に火を灯し、学校の指導方針を明確にしていきました。制服も学年ごとの進行ではなく、全校一斉の改定を行いました。これは学校の覚悟を内外に示す形でした。制服の乱れが社会的な問題となっていた時期に、学生たちにきちんとした制服着用を徹底させました。

問題行動に対しては、全職員が一丸となって徹底的に排除する姿勢で取り組みました。厳しい生活指導を継続することで、地域の保護者や中学校からの信頼は少しずつ回復してきました。本校入学者の層も改革の3年目あたりから変化してきたように思います。本校入学者および保護者の皆

様からは、いい意味で覚悟して入学して、
 意欲的な姿勢を感じています。さらに、
 学校後援会も立ち上がり、主に本校部活動
 の強化を支援していただいています。

また、新入生宿泊研修を導入しました。
 入学直後に地元国立乗鞍青少年交流の
 家で行う2泊3日のオリエンテーション
 合宿です。ここで学習三原則を新入生全員
 に浸透させ、いち早く西高生としての意識
 を育てるのが目的でした。このプログラム
 は非常に効果的で、長年にわたって続けら
 れてきましたが、コロナの流行により中断
 されています。体育祭にも力を入れて再開
 しました。現在では、生徒たちが主体とな
 って実施され、全校が最も熱くなる伝統行
 事となっています。

さらに、生徒たちに学習習慣を身につけ
 させるため、蛍雪クラスでは英検およびそ
 の他の検定の四級を、特進クラスでは英検
 三級を卒業条件としました。全担任が指導
 に関わり、この検定へのこだわりが、多く
 の上位合格者を輩出する原動力となつて
 います。

6・7限を部活動または補習の時間と
 し、全員が部活動か補習に参加する制度を
 導入しました。このこと、生徒指導上の意
 味はとて大きいものでした。また、勉強
 合宿を特進クラスで実施するようになり、
 「国立乗鞍青少年交流の家」、または河合村
 旧稲越小学校「セゾン稲越」を利用し、長期
 休業ごとに行いました。この行事は、始め
 は慣れない生徒に拒否反応が出て、教員と
 生徒の間に温度差があったのですが、最近
 では、ごく普通に実施していました。しか
 し、これも残念ながらコロナの影響により
 中断されています。さらに、平成33年度よ
 り習熟度別クラス編成、習熟度別授業、特
 編授業を実施しています。「時間をかけて
 個別に指導すること、英語や数学など
 の「ノウハウが必要な教科」に対し効果が
 大きいことが分かりました。しかし、当時
 のように生徒を無理やり長時間勉強させ
 る方法は、今の生徒には逆効果でした。生
 徒も先生も自己満足になり、主体的な勉強
 をしなくなる。その反省から、現在は家庭
 学習を重視する指導になってきています。



一年を振り返って

教頭 谷口 正彦

卒業生及び保護者の皆様へ

卒業生の皆さん、御卒業おめでとうござ
 います。また、卒業生の保護者の皆様には、
 本校の教育にご理解をいただき、様々な面
 でご協力いただいたことに心より感謝いた
 します。

西高校での3年間はどうか。勉強
 で苦労したこと、部活動で学んだこと、友人
 との楽しいひととき、たくさんの思い出が
 でき、自分自身を成長させることができた
 のではないかと思えます。2泊3日で三重
 県に行った修学旅行、文化祭、体育祭等の学
 校行事はコロナ禍以前に近い形で実施でき
 ました。

皆さんが、卒業式を迎えることは、本当に
 うれしいことです。今後も夢を持ち続け、そ
 れに向かって、良い人生を歩んでください。
 夢に卒業はありません。西高校での3年間
 の生活は、今後の君たちの生活にきつと役
 立つと確信しています。何かあったら、いつ
 でも学校へ来て下さい。西高校には君たち
 のことをよく知り、君たちのことを大切に
 考えている先生方がいます。高校を卒業し
 てからの、そして社会に出てからの、君たち
 の活躍に期待しています。君たちが活躍す
 ることが、西高校のさらなる発展にもつな
 がります。我々教職員も、君たちの母校であ
 る西高校をさらに良くするため、一丸とな
 ってがんばります。そして、いつまでも、君
 たちが母校として誇れる学校にすることを
 誓います。卒業生となっても、君たちは西高
 ファミリーの一員でいてください。このこ
 とは、保護者の皆様にもお願い申し上げます。

今年度の進路実績

本校は、平成元年から学習三原則(生活を
 正す、目標を持つ、継続する)を旗印として
 学校改革に取り組んできました。進路実績
 を上げる(なりたいたい職業に就けるようにな
 る・行きたい大学に行けるようにすること
 ・部活動を強化する(部活動を通して心身を
 鍛える・生徒たちが誇れる部活動とする)
 こと、そして何より、社会に通用する(西高
 の卒業生は「すごい」と社会から評価され
 る)生徒を育てることを目標に、改革を進め
 てきましたが、その方向性に間違いはなか
 ったと確信しています。

今年度も生徒たちが本当に努力し、お陰
 様で就職・進学において実績を残すことが
 できています。ここで、今年度の進路実績に
 ついて報告します。まず、就職状況について
 ですが、就職希望者18名全員が内定を頂き
 ました(内、公務員が7名)。また、進学の合



格状況は2月1日現在、4年制大学119
 校(うち国立19校)、短期大学12校、専門学
 校32校です。また、私立大学の一般試験・国
 立大学の2次試験の結果は出ていません
 が、今もがんばって学校で勉強している生
 徒が大勢います。最後まで頑張ってくれる
 ものと期待しています。

大学入学共通テストの考察

出題傾向をみると、昨年から大きな変化
 はなく、「思考力・判断力・表現力」を問お
 うとする出題でした。日常の事象を題材と
 した問題や、授業で学習する場面を想定し
 た問題、複数の資料やデータをもとに考察
 する問題など、これまでに問題された共通
 テスト特有の出題傾向は継続されており、
 これらの問題傾向は、新課程入試となる来
 年の共通テスト以降でも継続することが想
 定されます。日頃より、知識を暗記するだけ
 ではなく、知識を活用する力や資料を読み
 解く力を身につけることを意識するととも
 に、日常生活や社会の出来事にも目を向け
 ておくことが必要となります。

河合塾が実施した自己採点集計である
 「共通テストリサーチ」を参考に、科目別の
 考察を行うと、主要教科では「英語(リスニ
 ング)」「国語」で平均点がアップした一方、
 「英語(リーディング)」「数学I・数学A」「数
 学II・数学B」では平均点がダウンしました。
 「英語(リーディング)」は長文問題の単語数
 が大きく増加したことや、難しい設問が含
 まれていたことなどから、得点率8割以上
 の高得点層が大きく減少しており、高得点
 を取りづらかった様子うかがえます。「数
 学II・数学B」では、計算量は減ったものの、
 論理的な思考力が試される設問が多く、数
 学が苦手な受験生にとっては解きにくかつ
 たと考えられます。「国語」は現代文・古文・
 漢文すべてで平均点が上昇しました。現代
 文は正解を選びやすい素直な出題が多かつ
 たことや、古文は読みやすい文章だったこ
 となどが要因とみられます。理科では、主
 文系生の選択者が多い生物基礎の平均点が



Noblesse Oblige

【本校の現在】

本校は施設・設備は簡素で、なんの取り柄もない学校です。しかし「生徒が自慢の高校です」と胸を張って言える学校になっていきます。西高生であるという誇り、帰属意識を生徒が持つようになると、制服、挨拶も怒声で指導するの必要も無くなつてきます。卒業生の約半数が3年間無遅刻、無欠席で生活している学校は県内にもなく、保護者が安心して子供を預けられる高校といわれるようになりました。塾の分まで教える指導に対して、地元の保護者の皆様からも教育の質を高く評価されており、「県立高校へ入って塾へ通うより西高に預けた方が、成績も伸びるし、費用的にも結局安くつく」という声が少しずつ広まりつつあります。大学へ進学し、Uターンで就職する際に、本校卒業生は素直だと評価されていると伺っています。飛騨地区における本校の存在意義は大きくなってきており、医療系等への進学後帰ってきて活躍する生徒たちが多く、地元でも頼られる存在になりました。

ISO14001やSELHi、英語アイベント全国大会の立ち上げ、SGHなどの取り組みは、生徒たちの素直さがあつたからこそ、可能であったのだと考えます。職員やリporterの一言一言が、速やかに全校生徒に浸透してゆくことを実感できる。そんな校風が本校にはあります。そんな素敵な高校を、永続させていきたいのです。

321点と前年から69点アップしました。理科②では、昨年得点調整の対象となった生物が55点と、化学と並ぶ平均点まで上昇したものの、依然として物理との差は開いています。地理歴史・公民では、理系生の選択者が多い地理の平均点が上昇した一方、日本史では平均点が36点ダウンしました。

国公立大志望者を中心とする5教科7科目(900点満点)の受験者平均点は、文系が547点(+53点)、理系が589点(+72点)と文理ともに上昇しています。理系の上がり幅が大きいのは、文系生と比べて数学の平均点が高かったことや、前述した地理Bの平均点上昇などが要因だと考えられます。また、8割以上の高得点層を比較すると文系・理系とも1割増加しています。平均点の変化や高得点層の増減は、国公立大の志望動向に影響を及ぼしますが、今年は平均点による大きな影響はないものとみられます。

来年度から「情報」が試験科目となつてきます。本校も生徒たちが不利益にならないように様々な情報の収集、対策に努めて参ります。

本校では、今年度76名の生徒が共通テストに出願しました。受験生のがんばりもあり、実力を発揮できた生徒が多かったように感じています。普段とは異なる緊張感のなか、思わぬ失点をした受験生もいました。受験生には得点に一喜一憂せず、それぞれの夢の実現に向けて、力強く歩を進めていって欲しいと思います。本校の生徒は、国公立大学の2次試験・私立大学の一般入試まで、初志貫徹の強い意志を持って計画的な学習に徹し、努力を必ず合格という形にしてくれたいと信じています。また、1年生・2年生は大学入学共通テストの変化を踏まえ、計画的に勉強することで少しでも目標点に近づき、それを超えていけるように頑張ってくださいと思います。

部活動の状況

部活動においても、優秀な結果を出してきました。大会の結果を以下に記します。

なお、個人種目については入賞者のみ氏名を記載しています。

アジア大会

○アジアレスリング選手権(8位 堀 大智)

全国大会出場

○「翔び立て若き翼」北海道総体2023(インターハイ) 3競技5種目出場
アーチエリー男子個人、剣道女子団体女子個人、レスリング男女フリー(3位 堀 大智)

○「燃ゆる感動鹿兒島国体」に岐阜県選抜選手としてレスリング出場
○全国高等学校選抜大会 剣道男女団体、ハンドボール、レスリング個人、アーチエリー個人

○レスリングJOCジュニアオリンピックカップ 2名出場 (2位 堀 大智)

○全国高校生グレコローマンスタイルレスリング選手権大会出場 3名出場
○全日本高等学校吹奏楽大会 実行委員長賞

○全国パソコン技能競技大会 日本語ワープロの部(団体2位、個人1位 船場 太二)

○冬季新人ワープロ競技会 文書作成の部(団体2位、個人3位 長瀬 智煌)

○全国高校生英語ディベート大会
○東海高等学校総合体育大会

アーチエリー男子団体・女子個人、男子ハンドボール、男女バスケットボール 陸上16名

剣道 女子団体(優勝)、男子団体(3位) 女子個人(3位 若尾 榊子)

レスリング男子団体3位・男子フリー(3位 直井 夢希、3位 堀 大智、優勝 笹俣 結睦)

男子グレコ(2位 直井 夢希、優勝 堀 大智、3位 笹俣 結睦)

女子フリー(2位 圓山 倅羽、2位 今井 七彩)

○東海マーチングコンテスト 銅賞
○東海アンサンブルコンテスト、中部日本個人・重奏コンテスト
○東海ブロックリーグバスケット競技大会 優勝

○東海高等学校選抜大会 剣道男女優勝、東海新人大会 レスリング男子個人、男子ハンドボール、陸上、男子バスケット

以上のように多くの部で優秀な成績を収めてくれました。本来なら出場者全員を紹介するのが本位ですが、入賞者のみの紹介とさせていただきます。詳しいはホームページをご覧ください。目に見える形での成績ばかりではありません。体育系部活動においても、文化系部活動においても、生徒が毎日の部活動に取り組む姿は、本当に輝いています。部活動を通して、人間的に大きく成長する生徒の姿が見受けられます。

さらなる飛躍を目指して

今後、高山西高等学校は、文武両道の高校としてさらに飛躍したい、しなくてはならない、と強く感じています。

本校のキャッチフレーズの一つに「生徒が自慢の学校」があります。西高校の生徒たちは、実に健気で、ひたむきで、一心な姿で勉強や部活動に日々努力しています。そんな生徒たちの誇らしい姿を目にすると、我々も生徒たちの「夢」をかなえたいという使命感にかられます。また、そんな生徒たちの中に日々幸せを感じます。

私たち教職員全員で、今一度大切なお子様をお預かりしているという責任を自覚し、生徒たち一人ひとりの「夢かなえる!」のために、全力でサポートしていきます。そして、「自慢の生徒たち」とともに、さらなる高みを目指します。

「続けることの大切さ」

3年保護者 久保麻美

娘は中学生から陸上を始めました。中学2年生のころ短距離から長距離へ転向し、全国を目指してトラック競技や駅伝に挑戦してきました。そして、高山西高校から陸上での推薦のお話をいただき、高山西高校への進学を決めました。娘たちの学年はコロナ禍真っただ中の学生生活でした。中学3年のころは主だった大会が次々と開催中止となりました。先の見えないなか、部活動で進学することにも不安がなかったといえは嘘になります。何度も部活動で進学することの厳しさを話しました。しかし、陸上を頑張りたいという娘の意思は変わらず、高校生活をスタートさせました。

いざ高校生活が始まってみると授業、放課後の部活動、土日の練習、大会と毎日が目まぐるしく過ぎていきました。毎朝5時に起き、陸上日誌を書き、6時過ぎには朝練のため家を出ていきました。朝練で毎日7〜8km走つてからの授業は大変だったと思います。練習や大会で思うような結果が出ない時もあり、「もう辞めたい、タイムが伸びない」と弱音を吐くこともありました。しかし、指導してくださる先生方、同じ陸上部の仲間、他校の陸上仲間、中学の先輩など、娘を支えて励ましてくださる方が沢山いました。一人ではとても続けていけなかつたと思います。陸上は個人競技です。自分との戦いですが、仲間の協力や励ましがどれほど娘の力になったことでしょうか。親には話せない悔しい思いを仲間には話していたと思います。

そうやって頑張ってきましたが、全国への道は厳しいものでした。しかし、先日行われた全国都道府県対抗女子駅伝で岐阜県の代表にエントリーされ、全国の舞台で走れる最後のチャンスを得ました。結果は補欠でしたが、娘はとても晴れやかな顔で当日に臨み、選手のサポートを頑張り引退を迎えました。走れなかつたことにどれほど落ち込んでいるかと心配でしたが、「走れなかつたのは悔しいけれど、



それは自分の実力不足。ここまで来ることができて嬉しいし、同じ目標を持つ仲間が走ってくれることを応援したい」と、楽しく大会期間を過ごすことができたようです。娘なりに悔しい思いもしたと思います。それを考えると涙がでてきましたが、親が思うより娘はしっかりと自己分析をして前を見ていました。

卒業後、娘は看護師になるために看護学科へ進学します。学習面に関しては、もともと勉強は得意ではありましたが、西高校に入学してからは驚くほど勉強への姿勢が変わりました。部活動で忙しいなかでも、「両立している子も沢山いるから自分も頑張る」と娘なりに努力していました。看護師になることを決めた理由も「看護師になれば病院だけでなくいろいろな道へ行ける。医療の知識があれば競技を辞めても何らかの形で陸上に携われるかもしれない」と話してくれました。

この3年間で娘は本当に変わりました。親子ともに「西高校に入つてよかった」と思っています。これからの人生は平坦な道ではないでしょうが、陸上で培った続けることの大切さは、娘の人生にとって大きな糧となつていくことと思います。娘に関わつて下さつた全ての方に感謝します。3年間本当にありがとうございました。

「深まる進路」

3年保護者 窪田美幸

美術の道を志し入学した長女。しかし選んだ道は哲学の道でした。

「夢を叶えるために西高校に入つたんじゃないの?」本当にそれでいいの?と尋ねる私に、娘は真っ直ぐな目で「後悔は全くないよ」と答えてくれました。思えば、絵を描く仕事にはどういふ職業があつて、その仕事に就くにはどういふ学校があつて、その学校に行く準備としてこの夏期講習を受けた方がいい等々、担任の先生のみならずたくさんの先生方に親身になつてご指導いただきました。娘が西高校にご縁があつて本当に良かったと思っています。

応援して下さる周囲の声を全身に受け、朝早くから夜遅くまで机に向かう傍ら、時間を作つてデッサンの練習をする日々を重ねる娘の背中を見ながら、本人の見えない努力が報われることを願つておりました。

娘は特進Iクラスでしたので、ひたすら学校で勉強して家に帰るといふ毎日です。コロナ等感染症拡大のため遠足や旅行が無しになつたり制限されたりして、学校生活自体が楽しめているのか心配しましたが、友人と励ましあい、支え合うことで厳しい日々も楽しく乗り切つて来られたようです。新しい科目を学ぶのが楽しいとまで言う娘が、とても遅く思えました。

娘が楽しいという科目のひとつに、倫理学の授業がありました。授業内で出遇つたリトアニアのユダヤ系哲学者のレヴィナスの教えは、娘の人生の選択肢に大きな影響を与えました。レヴィナスは第二次世界大戦中にナチスによって家族を虐殺され、他者の生命が軽んじられていくにも関わらず、戦争は続き世界が回り続けることを目の当たりにしました。そうした経験により「他者」についての思想が深まつたようです。その思想は、他者の基本的な性格は他性(自分とは根本的に同じで



はあり得ない性質)にあるとし、他者は自分の自己意識のなかに取り込めないがゆえに圧倒的な重みをもつ存在であり無限であるという主張です。娘がレヴィナスに着かれたのは、今や戦前とも言われる日本の状況と、高校生活を送る上で他者との深い関わりからではないでしょうか。それ故に友人との関係に他者とはどういふ存在であるかの問いを見つつけて、哲学者の思想に自分の思想を重ね合わせ自分なりの答えを導くことが出来たのだと思います。他者が自分のことを完全に理解するのは不可能で、自分も他者を理解することは出来ないということ念頭に置けば、他者との違いを尊重できる。他者を理解しようとする自らの姿勢を大切にしたいと話してくれました。

娘がここまで深く物事を考えられるようになるまでに、どれだけ多くの人や教えなどの出遇いがあつたのでしょうか。コロナや戦争など、マイナスイメージに捉えられたり育てられ、あらゆる環境が娘を一人の人として育ててくれ、これを感じています。この先どういふ思念を以て、力強い一歩を踏み出すのか。混沌の時代をもバネにして、西高校の卒業生が活躍してくれること信じています。

「娘の成長と挑戦」

3年保護者 若尾卓哉

3年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。
この3年間はとても充実した時間であり、あっという間に過ぎてしまいました。娘は兄2人の影響もあり、小学校から剣道を始めました。中学2年生の時、コロナウィルスの混乱が始まり、中学3年生の時には試合や練習もできない時期もありました。全中出場を目指して毎日練習していましたが、コロナウィル

スの影響で全ての公式戦が中止になり、心に穴があいたような状態だったと思います。
そんなころ、縁あって高山西高校剣道部の練習に参加させていただきました。そこで全国トップクラスの選手たちと練習し、顧問の前川先生の熱い指導を目の当たりにして、高校で日本一になるという新しい目標ができたと思います。そして娘は高山西高校への進学を決めました。高校生として親元を離れ、知らない土地で生活することはきつくないと思いません。



慣れない寮生活で勉強と部活動の両立だけでなく、生活面でも自分のことは自分でしなければいけないため、毎日必死だったと思います。半年ほど経ったころ、娘が「3年生の最後の大会で前川先生とお父さんを絶対に北海道に連れて行く」と言い、「そのために練習を手を抜かずに頑張る」と宣言したのをはつきりと覚えています。私はとても嬉しく、少ししか時間が経っていないのに、彼女の成長に驚きました。
1年生の時の公式戦で娘の負けが原因でチームが敗れたことがありました。大事な全国大会の県予選でしたが、負けた後、彼女は泣きながらチームメイトや親さんたちに謝っていました。私もいたたまれない気持ちで胸がいっぱいでしたが、娘に声をかけることもできませんでした。彼女は今までにないくらい落ち込んでいたと思いますが、きつと自分で気持ちの整理をつけて、毎日の練習を頑張っていたことでしょう。つくづく親ができることは応援することだけで、何もできないことを痛感しました。
あの時の負けを糧にできたのか、2年生になってからはインター

ハイ出場、国体5位という素晴らしい成績を残すことができました。新チームになってからはキャプテンという大役を任せられ、全国選抜ベスト8、インターハイ出場と、親からしてみれば最高の結果を残してくれました。この3年間、剣道を通して色々なことを学ばせてもらったと思います。勝負に勝つためには練習だけでなく、普段の規律正しい生活や人に対する思いやり、モチベーションの維持など先生から指導を受けていました。先生が子供たちに発する言葉を傍で聞いて、大人の私も勉強させて頂きました。この3年間、娘にとっても最高の時間だったと思います。親の私も楽しくて良い経験をさせて頂きました。
最後になりますが、お世話になった先生方に感謝申し上げます。3年間、本当にありがとうございました。



育友会活動報告(後期)

令和5年

7~ 8月上旬 / 請願署名運動

署名総数 377,148名(本校19,780名)
来年度補助金額(1人当たり)375,010円
以上の結果となりました。ご協力ありがとうございました。

8月24日 / 模擬面接(3年生の就職希望者対象)

9月26日 / 飛騨地区高等学校育友会連合会
指導者研修会

10月30日 / 岐阜県高等学校PTフォーラム

11月16日 / 私立高等学校保護者連合会
第2回常任幹事会

令和6年

2月下旬 / 第2回役員会

3月(未定) / 育友会選考委員会



「両親に感謝」

3年A組 北澤史琉

高山西高校で過ごした3年間は、あっという間に過ぎ去り、卒業を迎えることになりました。私にとって、この3年間は、大好きなバスケットボールをするために親元を離れ、何も知らない高山という地での生活に不安と期待を抱きながらも、様々な経験をすることができた3年間でした。

まずは、部活動についてです。私は愛知県出身で、寮生活をしながら部活動に励んでいました。中学生の時は地元の高校に通い、バスケットをするつもりでした。しかし、高山西高校のバスケットボール部の練習に参加させていただき、質の高い練習や先輩方の優しさに惹かれ、この学校を志望しました。寮生活ということで父や母には大きな迷惑や心配をかけることになりましたが、両親は自分の行きたい学校に行きなさいと言ってくれました。私は両親に全国大会に出場して恩返しをするという強い気持ちを持って西高校に入学しました。



高校バスケットが始まりましたが、自分の体格や技術では全く足りず、悔しい思いをしました。しかし、朝のシューティングやウェイトトレーニングなどで身体作りを行い、2年生になると試合にも多く出させていただけようになりまし。先輩方や仲間のおかげで、東海大会では3位に輝きました。自分たちが最上級生となった最後の一年は、新人戦で5位という不本意な結果から始まりました。バスケットが嫌になるほど苦しみましたが、指導してくださる先生、何より応援してくれる仲間や家族の支えのおかげで頑張れました。そして迎えた高校最後の大会では全国に出場して恩返しをしたかったのですが、夢を叶えられませんでした。当然、悔し

い思いもありましたが、バスケットの技術だけでなく、心身ともに成長できたことが何よりの財産です。33人の仲間と一緒にバスケットボールができたことに感謝します。

次に、体育祭についてです。コロナの影響で中断されていた体育祭が本格的に再開されました。私は赤団団長を務めることになりました。体育祭は代々受け継がれてきた伝統行事であり、体育祭を復活させるにあたり、本当に自分で大丈夫なのかと心配になりました。しかし、体育祭の準備には多くの人々が協力してくれました。副団長とともに団席の踊りの振り付けを考え、競技担当やサプ

リーダー、総務、マスケット、そして暑い中、段席の赤団団員が力を合わせてくれました。心配するよりももっと頑張ろうと思えました。そして、体育祭当日。今まで準備してきたことを発揮しようと、初めの瞬間から全開で取り組みました。多少のハプニングもありましたが、赤団全員が一丸となり、学年を超えて助け合いながら、勝利を目指して体育祭を盛り上げました。まさに赤団のテーマ「Best The Best」を体現できた瞬間でした。最高の体育祭になりました。

3年間を振り返ると、苦しい思い出もたくさんありましたが、楽しい思い出もたくさんあります。これらの貴重な経験ができたのは、父と母のおかげです。本当に感謝しています。大学でもこの経験を活かして頑張りたいと思います。クラスメイトやたくさんの仲間、温かい先生方に恵まれて、私は本当に幸せ者だと感じます。高山西高校で過ごした3年間、本当にありがとうございました。

「雨にも負けず」

3年G組 川上雄之助

雨にも負けず 風にも負けず
雪にも夏の暑さにも負けぬ
丈夫なからだを持ち 慾はなく
決して臆らず いつも静かに笑っている
一日に玄米四合と味噌と少しの野菜を食べ
あらゆる事を自分を勘定に入れず
よく見聞きし 分り 分り 分り 分り 分り
野原の松の林の蔭の小さな萱ぶきの小屋にいて
東に病気の子供あれば 行って 看病して やり
西に疲れた母あれば 行って その稲の束を負い
南に死にそうなる人あれば 行って 怖がらなくてもいいと言ひ
北に喧嘩や訴訟があれば つまらないからやめろと言ひ
日照りのときは涙を流し
寒さの夏はオロオロ歩き
みんなにデクノボーと呼ばれ
褒められもせず 苦にもされず
そういう者に私はなりたひ

この詩は私が小学6年生の時に出会った詩です。作者の宮沢賢治は自然や人への深い愛情を持った人物です。この詩を通して宮沢は何を伝えたかったのか。私はこう思います。「優しく、辛抱強い人になりなさい」。私はこの詩に感銘を受け、そして、私も優しく、辛抱強い人を目指し、この目標に近づきました。この高校3年間は、その目標に一歩近づけた3年間だったと思っています。

宮沢賢治

中学生の頃から大学に進学したいと考えていた私は、高校では勉強に本腰を入れて頑張ろうと思ひ、特進1クラスに進学しました。大学に合格するのは大変なことだと知ってはいましたが、高校に入ってから初めてその本当の難しさを実感したのを覚えています。毎日毎日、勉強、勉強、そんな高校3年間でしたが、私は高山西高校を選んで大正解だったと思っています。そう思えたのは、3年G組のクラスメイトの存在が大きかったです。3年G組は、大学進学という高い目標を持つ人たちが集まり、勉強面でお互いに切磋琢磨できるクラスでした。一方で、クラスメイト一人ひとりの溢れんば



かりの個性が調和した、にぎやかで活気のあるクラスでもありました。あまりに賑やかなので、「あなたたちの良いところは元気なところですよ。でも、はじめですからね。お願いですから。集中！」は、担任の桂川先生の口癖になった気がします。受験直前になってもこの賑やかさは変わらず、むしろ目を重ねることにとんどんヒートアップし、みんな受験は大丈夫なのか心配になることもありました。しかし、それはそれで良かったのだと、今思います。大学受験は甘くはありません。受かるかどうか分からない受験。一人だけではおのことも、根性がなくては勉強を続けられませんでした。私にも、覚えることが嫌で勉強を投げ出したくなった時や、受験が近づき不安になった時がありました。そんなとき、クラスメイトにだけ受けえられたでしょうか。志望校に合格しようと思ひ、仲間との姿は、このままでいけないうと頑張らなくては、と私を奮い立たせてくれました。逆に、賑やかなクラスの雰囲気は、不安な心に余裕を与えてくれました。そうして大変な受験を乗り越えられたのですから、3年G組のクラスメイトと3年間を一緒に過ごせて、私は大変幸運だったと思っています。これからもこの仲間たちとの関係を大切にしていきたいです。

さて、もうすぐ私は大学生になります。これ以上、自分のことを自分で考えて生きていかねばならなくなりますが、楽をしようと思ひ、いくらかでもできます。しかし、「なぜ、私は大学へ進学するのか」、これを見失っては、これまでの努力が全くの無駄になりますし、私を応援してくださった多くの人の期待を裏切ることにもなります。将来、自分に与えられた能力を最大限、人のために活かすことは私の使命です。ですから、大学でも一生懸命勉強を頑張りたいです。また、精神的にも、もっともっと自分を磨いて、優しく、辛抱強い人になっていきたいです。

「やりきったと心から思える」

3年K組 佐美晴陽

3年前の冬、私は高山西高校の特進IIクラスに進学することを決めました。特進IIクラスは、学業と部活動の両立を目指すクラスであり、その厳しさは覚悟はしていたものの、予想以上にハードなものでした。

ハンドボール部は、部活動の時間だけではなく、朝練習や自主トレーニングなど部活動以外の時間も多く、まさにハンドボール中心の生活でした。週末には遠征が組まれ、県内外の全国レベルのチームと練習試合を多く行いました。その様なレベルの高いチームと対戦することができたのは、高山西高校ハンドボール部だからであり、その中でも特に日本代表のおりひめジャパンと練習試合ができたことは貴重な経験となりました。

しかし、遠征時には日々の課題や予習復習など、家庭学習だけではこなすことができません。時間が足りませんでした。そのため遠征先にも課題を持参し、移動中や宿泊先などでも、課題を持ってきたチームメイトと一緒に勉強しました。特に英単語などは移動中の時間に有効活用するなど、効率よく勉強できるように工夫して生活しました。さらにクラスで行われていた朝学習にも参加しました。また、夜練習の後などは、肉体的にも精神的にもかなり疲弊しており、入学当初は帰宅後に寝落ちしてしまうことがよくありました。そこで、夜練習の後には再び教室に戻り、課題を終わらせてから帰宅するようになりました。そのため、家はほぼ寝るための場所になりました。部活と学業の両立は多忙を極め、心が折れそうになることもありましたが、それでも、先延ばしにするのではなく、今日だけ頑張ろうという強い意思で乗り越えてきました。一緒にがんばる仲間や、常に部活と学業の両立ができる環境を整えて下さった先生方には感謝の気持ちで一杯です。

改めて思うのは、担任の先生の惜しみないバックアップのおかげだと実感しています。さらに念願だったインターハイに出場することができました。3年連続東海大会に出場することもできました。顧問の先生やコーチ、チームメイトに



は心から感謝しています。今は、部活動に思いっきり打ち込むことができ、かけがえのない経験をすることができた達成感が溢れています。

部活動引退後は、これまで部活動にかけてきた時間や熱量の全てを受験勉強に注ぐことになりました。部活動と学業を両立することで生活のバランスを取っていた私にとって、学業のみに集中するということは不安でいっぱいでした。クラスメイトと励まし合い、自分の夢にむかって努力する仲間と一緒に過ごすことで、さらに絆が深まると同時に、受験生としての自覚を少しずつ持ち始めました。それに加え、小論文の添削や、毎日のように面接の練習を、指導頂き、的確なアドバイスを下さった先生方の厚いサポートのおかげで、自信を持って試験に臨むことができました。その結果、第一志望の大学にも合格することができ、看護師になるという夢のスタートラインに立てました。

卒業間近となり改めて思うのは、高山西高校という整った環境でやりきったと心から思えるほどハンドボールに熱中し、第一志望の大学に合格し次のステージに進むことができるのは、先生方、クラスメイト、チームメイト、そして家族の支えがあったからだだと実感しています。大学では医療の知識や技術を学び、学生にしかできないことをたくさん経験したいです。

これから先の人生において、予期せぬ出来事が多々起こるでしょう。どんな時も、自分の置かれた環境で、与えられた役割に誠実に向き合っていきたいです。常に感謝の気持ちを忘れず、慈しみの心を持った看護師になれるよう、夢に向かってさらに精進します。



PHOTO LIBRARY 西高フォト ライブラリー

卒業生へ、贈る言葉

3A担任 江黒 永寿

覚えておいて。君たちは僕らの宝物。宝物は決して粗末に扱ってはいけない。磨きをかければかけるほど輝く。輝いて見えるものもあれば、目に見えないものもある。この体が朽ち果てようとも、あとの光景や教え、感覚は後世に引き継がれる。一緒に過ごした時間、いつまでも忘れずに、元気でいてください。

3A副担任 宇都宮 宏美

卒業おめでとうございます。これからすてきな人生を歩んでください。みなさんの活躍を楽しみにしています。

3F担任 田中 夕貴

ご卒業おめでとうございます。今この瞬間自分の将来の夢に向かって大きな一歩を踏み出しました。各々が異なる道を歩みますが、その道はみなさん自身で拓いていくものです。その途中で大きな



壁にぶつかることもあるでしょう。乗り越えられることもあるでしょう。そうでないときも一休みしたり方向転換したりするのも一つの道です。ちなみに、私は方向転換をした人です。道を変えても良いのです。人生、案外どうとでもできますよ。人生を楽しんでください。

学年主任・3G担任 桂川 剛士

3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。あなたにとって、この高校生活がどのような意味を持つのか。

それは、これからのあなたの生き方によって決まるものだと思います。あなたには、自分の人生や周囲の環境に意味を与える力があるのだということをお忘れなくください。今後益々のご発展を、心よりお祈り申し上げます。

3FG副担任 野村 国広

最近考えます。欲張りの方が人生楽しいのではないかと。あれもしたい、これもしたい。〇〇を見て、××を食べたい。自分が入れないあちら側に行ってみたい。知らなかったことを知りたい……。

シンプルなお望もつたり、とりあえずやってみる中、ネットでも大切だと思えます。今の世の中、ネットで調べれば大概の方法は分かれます。垣根もずいぶん低くなっています。成功している人は、シンプルなお望を愚直に実行していった人なのではないかと思えます。そして、そんな人生は楽しいと思いません。

さあ、高校という縛りから解放された皆さんには、いざ欲張ってみたいと思えます。卒業おめでとう。



3H担任 三川 俊哉

「苦しい状況、緊張に負けそうな状況こそ誰でもが味わえない瞬間を味わうチャンスである」。何事もポジティブに考えることができれば、人生はきつと楽しく豊かなものとなります。これからの君たちの未来が幸多きことを祈っています。卒業おめでとう。

3I担任 田邊 元

3年生の皆さん卒業おめでとうございます。高校3年間はあっという間に過ぎたと思えます。コロナ禍での入学式から始まり、不安な部分もありました。

しかし、3年生の時は文化祭や体育祭がきちんとでき、部活動の大会も例年通り行われ、たくさん思い出をつくることができましたと思えます。3年間一生懸命努力できたことを自信に持って、卒業後のそれぞれの道を歩んでいってください。頑張れ！

3HI副担任 新海 亮人

ご卒業おめでとうございます。楽しいことも苦しいことも全てが君たちの財産です。これからいろいろの人に会い、高校で学んだ知識や経験がどれほど重要だったかを知っていくことになる

でしょう。人生は選択の連続です。選んだ道を信じ、今できることに一生懸命取り組んでください。皆さんの今後の活躍を楽しみにしています。

3J担任 木伏 智仁

卒業おめでとう。部活動や勉強に力を入れた3年間でしたね。高校生活では、周りの大人や仲間をサポートにより、それぞれの場面で成果を上げてきました。これからは自身で決断し、その道で一生懸命努力して力を発揮しなければなりません。とにかく、努力の積み重ねです。そして、内向きで独りよがりではなく、他人のために行動できる素晴らしい大人になってください。

3K担任 出崎 太二郎

朝早くから夜遅くまでの勉強や部活動、そして大量の課題。そんな激動の3年間で培った経験や楽しい友人関係は一生の宝物です。しかし、時には思い出に浸ることも大切ですが、また新しい生活が始まります。就職する人、進学する人、自分の力を磨く人、それぞれ新しい出会いや成長のチャンスが巡ってきます。それらを逃すことないように、しっかりと前を向いて突き進んでいってください。

卒業おめでとう。最幸の人生を歩んでください。

3JK副担任 元田 尚美

卒業おめでとうございます。新しいデザインの制服になり、初めて卒業式を迎える皆さんは強く印象に残る学年です。コロナ禍で制限の多いなか、勉強、部活動、学校行事によく頑張りましたね。これまで経験してきたすべてのことが皆さんの肥やしになっていきます。この先もさまざまなことが待ち受けていますが、自分に起こることは必ず意味があると思えます。健康第一で、引き続き皆さんの精一杯取り組んでいきましょう。皆さんのますますの活躍を願ってエールを送ります。

編集後記

令和3年4月、期待と不安を胸に入学式を迎えられた皆さん。当時はまだコロナ禍にあり、入学式も新入生と保護者は別々の教室で行われました。多くの不安を抱きながら、行事や部活動などが中止や縮小されるなか、現実をしっかりと受け止め、前向きな気持ちで目の前の課題や壁を一つ一つ乗り越えてこられました。今、皆さんには明るい未来が待っていると信じています。保護者の皆様にも、たいへんなご苦労やご心配があったと思います。しかし、従来の高校生活とはまるで異なる3年間で過ごした彼らは、きつと未来を見据え、前向きに人生を送ってくれることと信じています。

先生方、我々保護者にはわからないご苦労やご面倒がたくさんあった事と思いますが、ここまで指導いただいたこと、心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、この第47号の発行にあたり、ご協力頂きました皆様にお礼申し上げます。

(文化委員長)

